

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所属 保健医療学部

名前 浅野和仁

作成日 2026年4月30日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

本学部では「人々の真の幸福と健康を支援する」という教育理念の基、医療に携わる人材の育成を行っている。そのためには各種疾患の発症機序や治療、予防法を理しているのみならず、人体の正常な構造や機能を正確に把握していることが必須となる。

看護学科では①生理学I、II、III並びに②生化学を、リハビリテーション学科で

は①生理学実習を担当している。両学科においてこれらの科目は必修で、1年生で開講されている。生理学系の科目では人体の正常な機能ならびに機能の異常と各種疾患との関連性について教授する。生化学では、人体が正常な生命活動を維持するために必要な物質の代謝や物質代謝の異常と各種疾患の発症について教授する。また、リハビリテーション学科の生理学実習では人体の正常な機能を理解できるようなヒトを対象にした実験を行っている。

2. 理念（教育に対する考え方）

生理学ならびに生化学では、専門用語をただ単に暗記するのではなく、常に何故？という疑問を解決することができるよう能力を養う。本学部の学生さんは将来、疾病の治療や予防に携わることになり、その際は患者さんの心を理解し、寄り添うことが重要になる。各種疾病で肉体的に病んでいる人は心にも串が刺さり心をも病んでいる。このことはワズラウという文字(患)に表れています。授業のみならず、日々の学生生活の中で友人・教員など多くのヒトと接し、互いに切磋琢磨し、心に刺さった串を抜いてあげられるような能力を養う。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

日進月歩の医療の担い手となる学生さんにとっては、本学のディプロマ・ポリシーの中に掲げられている「生涯学ぼうとする意欲」、社会からの「自立」と他者との「共生」に必要な思いやりやコミュニケーション能力が重要となる。これらのディプロマ・ポリシーを達成すると、そこには当然、喜びが生まれる。生理・生化学系の授業では、基礎的な内容から最新の知見までを平易な言葉を使用して説明するとともに、疾患については画像を駆使し、学ぶ喜びを学生さんが得られるように工夫している。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

授業アンケートにおいて、「難しい内容をかみ砕いてわかりやすく説明してくれる」、「人体の正常な状態のみならず、疾患についても画像を使用して説明してくれる」という趣旨の記述がなされており、普段から心がけていることが評価され嬉しく思っている。授業開始前に前回の復習小テストを実施していることに対しても、知識の定着に役立ったという評価が出されている。これらの評価を踏まえ、今後も授業をより良い方向に改善していきたいと思っている。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

学科を問わず講義科目では、講義内容の理解度を判定するための簡単な復習小テストを翌週実施し、合格点に達していない学生さんに対しては補講用動画の視聴を義務とし、知識の定着を図っている。また、実習科目では、実施項目ごとに実習終了後1週間目にレポートを提出させ、内容を確認、添削後学生さんに返却、知識の定着を図っている。

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

シラバス